

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700125		
法人名	有限会社エムエス		
事業所名	グループホーム私とゆかいな仲間		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4715番地5		
自己評価作成日	令和2年10月2日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設の協力医療機関と同じ建物にあり、医療連携を図ることができ、24時間医療サポートを受けれている。 ・併設の通所サービスやグループホームと合同でクリスマス会等を開催し交流を図るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>嬉野市内の住宅街に佇むホームは閑静な環境にある。クリニックの2階にあり、居室からの眺めが良い。クリニックの併設ホームであるため、入居後も、外来や訪問でリハビリを継続し機能訓練を受けることが出来る。医療機関との連携が密に行われており、理学療法士、作業療法士がホームの職員と週に1度ミーティングを行い、入居者の情報を共有している。医療度の高い入居者の食事にも対応しており、腎臓食、心臓食の提供も可能である。新型コロナウイルスの影響で外出が難しい中であっても、ホームの中で楽しく過ごす工夫に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関及びホールに提示している。定期的に法人代表と話し合いの場を持ち、理念を共有している。	施設内に掲示し、誰もが確認することが出来る。新入職員に対しては、入職時の研修で説明が行われ、理念の周知が図られているが、理解度に個人差が見られる。	理念が実践に結び付くような取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢化等により地域行事への参加が困難になっている。クリニック受診時やリハビリ室等で、顔見知りになった地域の方に声を掛けてもらったりしている。新型コロナの影響で顔を合わせる機会が減っている。	外周の清掃や花壇の手入れを地域住民と一緒にやっている他、年末には地域住民から材料を提供してもらい、門松づくりを行っている。新型コロナウイルスの影響により、例年に比べると地域との交流頻度は少なくなっているが、地域の清掃作業に法人から参加する等、地域とホームとの関係性が継続する取り組みがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場などで、地域代表の方や地域包括支援センター代表の方などから相談や質問を受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の健康状態や施設行事等の報告を行い、行政や地域代表から情報提供を受ける等している。約半年間は新型コロナウイルス感染予防対策の為会議は開催せずに、書面等で報告を行っている。	新型コロナウイルス感染予防の観点から、令和2年4月以降は書面で開催している。書面にはホーム内の様子も写真で添付し、入居者の様子が伝わりやすい工夫が講じられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方や担当者の方とは日頃から交流もあり、入所、退所の状況や実情を伝える等協力関係を築いている。	日常的に交流があり、協力関係を築いている。相談しやすい関係にあり、地域包括支援センターが行うケア会議にも定期的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが2階にあり、ドアを開けたらすぐ階段があるので、転落の危険がある為施錠している。法人内の身体拘束委員会や院内勉強会へ参加している。	病院が開催する身体拘束適正化委員会に参加し、ホームとして身体拘束に関する理解を深めている。言葉による行動抑制にも十分注意し日々のケアを行っているが、建物の入口に段差やスロープがあるため、玄関の鍵は施錠されている。	段差を認識できる工夫を講じ、短時間から開錠する等、施錠が常態とならない取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会へ積極的に参加している。オンラインの研修などを受け、職員間で注意しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は大まかな事は知っているが、説明ができるまで詳しく分からないと思う。説明ができるように、制度に関する勉強会がある場合は参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用いて説明し、質問には丁寧に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に声をかけ利用者の状況を説明している。毎月ホームからのお便りを郵送している。家族から出た質問は話し合い、必要時は法人代表へ伝え運営に反映している。	家族が面会に訪れた際に声掛けし、意見がないか尋ねている。また、月に1度発行するホーム便りには、職員が手書きで普段の生活の様子がわかるような文章を一人ひとりに書き添えられている。家族とは、話しやすい雰囲気であり良好な関係性が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて管理者や法人代表を交えて話し合いを行っている。夜勤帯や日勤帯で毎日法人代表へ申し送りを行っている。	月に1度カンファレンスを開催し、職員からの意見を聞く場を設けている。その他、必要時法人代表者と話し合う場を設け、運営に関し職員の意見が反映される仕組みが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表は個々の職員の相談に応じたり、本人の意向を確認し、併設グループホーム間での職員配置換えが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設医療機関の各委員会に職員がそれぞれに配置されており委員会へ参加している。毎月行われている院内の勉強会への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが開催しているケア会議にケアマネが参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決定した時点で、本人に面会し本人が話しやすいような声掛けをするように心がけている。話されている時は傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に面会し困っている事や要望など細かく聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際にしっかりと話し合い、必要な支援がなんであるか考え、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護をしないように、本人の意向を確認しながら介護を行っている。楽しく生活して頂けるように職員同士で話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時に本人の生活状況を話したり、毎月職員が生活状況や健康状態などを手紙で家族に郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は少なく、家族や親族の面会が多い。今年は新型コロナウイルス感染予防対策の為施設外の場所(第二待合室)で面会して頂いている。	新型コロナウイルス感染予防のため、馴染みの人等来訪者との面会は、ゆっくり過ごせる工夫を講じているが、現在は別室で行っている。病院でのリハビリの帰りに馴染みの場所へ寄る等の交流も図られており、関係が途切れないよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性を把握しホールでのテーブル席など職員で話しあい検討し、情報共有して関わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方にお会いした時や、本人にお会いした時は声掛けし、様子を探るようになっている、		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で関わる時にゆっくり時間を取り意向や思いを聞きだすようになっている。意思疎通が困難な方は表情や行動を観察し、何をしたいのか考え、職員間で共有し個別ケアをしている。	入浴やおやつ等の時間等、入居者と1対1で過ごす場面では、本人とゆっくり話し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前などに本人や家族から情報を聴取際に生活歴などを情報収集している。介護サービス利用がある場合は担当ケアマネ等に情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が把握できるように個人ノートに日勤帯と夜勤帯の状況を記入している。朝夕の勤務交代時に申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を確認し、必要なサービス内容を作成するようにし、支援チェック表を作成している。毎月モニタリングを実施している。	介護計画の更新は6ヶ月毎に行われ、記録もわかりやすい形で整備されている。介護計画の更新の都度、サービス担当者会議を開催し、本人、家族、必要な関係者と意見交換を行い、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有できるように、個別ノートにその日の状況や注意点など記入し、申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができるように、併設のクリニック職員に尋ねたりしている。日々の生活が単調にならないようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が少ない為、数年来利用している美容師さんが訪問される程度である。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が併設クリニックがかかりつけ医であり、受診時には職員が付き添い、日頃の状況を伝え、緊急時には直ぐ対応し家族へ連絡している。	併設のクリニックは24時間対応可能であり、日中に入居者の情報を共有し、夜間の急変に備えている。歯科や皮膚科、眼科等の専門医への受診支援も行われている。入居前の主治医を継続して利用することも可能である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日バイタルチェックや体調管理を行い、変化があった時はクリニック看護師へ伝え指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院さてた際は必要事項を情報提供用紙に記載し提出している。定期的に面会に行くようにしている。退院時はサマリーを依頼している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期や重度化については書類を用いて、主治医より説明し、同意を得るようにしている。併設クリニック看護師と情報共有しながら支援の方法を決めている。	看取りの指針や、マニュアルが整備されており、職員間での共有もなされている。入居時に、重度化した際のケアについて本人や家族に説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていないが、急変時はクリニック看護師へ報告し、早急に対応してもらっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の併設機関の体制は整っている。年2回併設機関と連携し、訓練を実施している。夜間想定訓練を検討しているが、まだ実施できていない。	年2回、火災避難訓練を実施している。訓練は併設のクリニックと合同で行い、避難経路や連絡経路の確認も行われている。法人としての対応や、避難体制も整備されているが、夜間想定訓練の実施や夜勤専従者の訓練参加について課題が残る。	夜間想定訓練の実施や夜勤専従者の訓練参加に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような話し方や言葉使いをするように心がけ、日頃から職員間で注意しあうようにしている。	トイレや入浴時、居室に入る際のノック等、入居者のプライバシーの確保に努めている。法人のオンライン研修では接遇を学ぶ機会があり、入居者の人格や誇りを尊重した対応に努めている。また、入居者への言葉遣い等で気づいたことがあれば、職員同士で互いに指摘できる雰囲気も醸成されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができれば声掛けし、しっかり聞くようにしている。自己決定のできない方は本人の思いを理解するよう、表情行動を観察している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しないようにしているが、優先してしまっている時があると思う。本人のペースや希望や意思を尊重して支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの服や髪形などを理解し、着用する洋服など本人に決めてもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付け等能力的に困難な方が多い為、職員が支援し、嚥下状態に合わせた食事形態にしている。誕生会の食事は本人の希望を聞いて提供している。	食事の形態のみならず、腎臓食や心臓病食等にも対応し、入居者の状態に合わせた内容の食事を提供している。また、外出先でおやつを食べたり、ホームの行事に合わせた特別食や外食支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設法人の管理栄養士による献立で、個々の状態に合わせた食事形態になっており、食事摂取でき、栄養バランスが整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態を観察し、必要時は協力歯科医院へ受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのタイミングでトイレ誘導を行う事で、日中は出来るだけ便座に座り排泄できるよう支援している。トイレに誘導する際は、声掛けを工夫し、羞恥心やプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘時は水分補給や腹部マッサージ、食物繊維の多い食材の提供などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順番や時間など希望を尊重して、ゆっくり入って頂いている。機械浴を利用されている方は、クリニックの職員と話し合い入浴日を決めている。	1週間に2日の入浴を基本としているが、風呂は毎日沸かし、本人の状態や希望に合わせた入浴支援を行っている。機械浴にも対応しており、浴室内は明るく清潔に保たれている。入浴時は、一人ひとりの時間を十分に確保し、ゆっくりと入る事が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを理解して、休息の声掛けを行っている。又快適な温度や湿度になるように、除湿器や加湿器を活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書を確認し、効果や用法用量を理解し、服薬管理を行っている。異常時は併設クリニック看護師へ報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き等手伝ってもらっている。誕生会や施設行事等実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防と、高齢化や重度化で外出が減っている。天気の良い日は施設周辺を散歩している。	外気浴や近隣の散歩を日常的に行い、感染症対策を行いながら、花見や福祉施設での催事や地域の行事にも出向いている。近隣を散歩する際は、近隣住民との会話を楽しむ等、地域との交流が楽しみなものとなるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が金銭管理が困難で、所持されている方はおられず、支援もしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けて欲しいと希望された時は、職員が電話を掛け、本人と話ができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	除湿器や加湿器、空気清浄機を活用して感染予防に努めている。共用スペースには季節感のある飾り付けや行事の写真を飾っている。	季節感と生活感を大切に、屋内の飾りつけや壁の掲示物にも工夫が施されている。1日3回、温度と湿度をチェックし、室内を快適に保つとともに、換気や消毒も1日に複数回行っている。職員同士の声の大きさや足音にも配慮がなされており、居心地のよい共用空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は気の合った方同士にしたり、お互いの部屋で話して頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに制限はなく、使い慣れた物や大事にされている物などを持って来ていただくよう本人や家族に話している。	持ち込み禁止の物は無く、本人が慣れ親しんだ物を持ち込むことが可能である。仏壇や写真、手作りの写真が飾られており、個性豊かな居室づくりが行われている。ベッドの向き等は本人の状態に合わせて、本人や家族と相談しながら配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺が取り付けられ、夜間歩行時は足元のライトが点灯するようになっている。居室が分かるように、入り口には表札のように名前を書いて貼っている。		